

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 オリーブ)

事業所番号	0670800770		
法人名	医療法人社団 さつき会		
事業所名	グループホーム明日葉		
所在地	酒田市曙町2-24-2		
自己評価作成日	平成23年11月13日	開設年月日	平成15年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①入居者の家族とのコミュニケーションを大切に、入居者にとって最も良い方法・環境作りを心掛けている。
 ②入居者の体調管理は、個々の特徴を捉えてトイレ誘導や排泄、バイタルチェック、食事・水分量など細かくチェックしている。
 ③医療面に関しては、同法人の老人保健施設及びクリニックが近接しているので、医師・看護師とすぐ連絡がとれる体制になっている。
 ④体操・レクリエーション心身の機能維持・向上を心掛けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
 (公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 23年 12月 6日	評価結果決定日	平成 23年 12月 27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「オリーブ」と「シャロン」というしゃれた二つのユニット名は「爽り」と「平安」いう花言葉で、生活面では利用者が主役で、職員は見守りながら「生活のパートナー」として出来なくなったことを手伝っています。健康面では食事から排泄まで細部にわたり記録し、早めの対応や医療機関と連携を蜜にして健康管理に努めています。得意な事や家事全般を少しでも出来ることはしてもらい、又は一緒に行くことで生きがいを持って、ゆったりと穏やかな生活が送れるように支援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し、その人らしく生活できるよう支援するとともに、地域の交流も大切にし、生きがいある支援に努めている。	職員は法人の三原則「明るいあいさつ、笑顔、声がけ」を心がけ、自然や地域の力を借りながら、ゆっくり丁寧に接し、利用者の人格を尊重してその人に合った支援を実施している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と防災訓練・夏祭りを行ったり、幼稚園・小学校と交流を行っている。また、法人の広報誌明日葉だよりを通じて活動報告をしている。	開設丸8年となり、地区の夏祭り、盆踊り、文化祭参加やボランティア、幼稚園児、小学生の訪問は毎年の恒例行事となっている。地元中学生の職場体験の受け入れや防災訓練参加など地域と積極的な交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族介護教室を開催している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加された方に状況報告・意見交換を行い、サービス向上に活かしている。また、参加されなかった方にも報告を行っている。	毎回全家族に参加案内を出し、数名の参加がある。テーマに沿って話し合いが行われ、地域との情報交換の場として活用し、サービスの向上に反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き助言を頂いている。また、疑問点があればその都度報告・相談を行っている。	市の担当者とは相談事、連絡事項、同業者研修会の講師依頼など、顔なじみの関係で交流を深めている。毎月介護相談員を受け入れ、外部の目が入ることによって職員の意識向上に繋がっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束について施設内研修会を行い、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。入居者に行動の制限をすることなく、自由に過ごしていただけるよう努めている。	職員は何が身体拘束にあたるか常に考え理解を深め、利用者の気持を優先し、寄り添いながら見守りを徹底することで、安全で自由な暮らしを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修会で学んだことを実践し、虐待を見逃さないよう、職員が同じ意識を持ってサービスを行うよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを作成し全職員に配布している。まだ活用しているケースはないが、相談に応じていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、家族の方に理解して頂くよう施設見学や十分な説明を心掛けている。契約時以外にも疑問が生じた場合は、その都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が職員になんでも話せるようコミュニケーションや環境作りを心掛けている。その他に玄関ホールに意見箱を設置したり、家族にアンケート調査を行っている。(忌憚のない意見を頂くために匿名にしている)	「利用者満足度調査」というアンケートを毎年家族に実施し、サービス向上に活かしている。その結果を共有し、利用者、家族等とは管理者をはじめ職員全員が会話などのコミュニケーションを多くとることで、信頼関係を築いている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の人間関係を大切にしており、歓迎会や反省会などを設けて話しやすい環境作りに努めている。会議等でも発言を促すようにしており、職員の意見は極力反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価を行い、個々の目標、反省点を確認し、向上心を持てるようにしている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会などに参加するように心掛けるとともに、法人内でも月に1回研修会を行いレベルアップに努めている。また、介護福祉士やケアマネジャーの試験対策も行っている。	外部研修の参加や法人内研修会、配置換え、資格取得奨励により法人全体で職員のスキルアップに繋がる取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県や市の協議会に加入しており、他の事業者との交流、意見交換、勉強会を行い、業務に活かしている。交換実習にも参加し、質の向上に努めている。	管理者はグループホーム連絡協議会の役員として交流、情報交換、ネットワーク作りリーダー的存在で積極的に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接を行い、傾聴を心掛けている。また、その都度相談に応じて本人が安心して過ごせるように心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面接を行い、傾聴を心掛けている。本人が安心して過ごせるよう家族とその都度相談している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族と相談し、必要とするサービスの提供に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に本人の気持ちを尊重し、寄り添う気持ちで接している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を大切にし、協力し合い入居者を支えるよう努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊・外出は自由に行って頂き、関係が途切れないよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりあえるよう、状況や性格に合わせて部屋・席の位置を決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば、退居後も必要に応じて対応していく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人の立場に立って検討している。	家族等からの情報を中心に思いや意向を確認し、アセスメントシートにまとめ職員は共有している。利用者と家族等の思いが違う場合は、双方の意見を傾聴して調整役となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴や趣味などアセスメントをとって把握に努めている。また、家族・ケアマネ・包括にも聞いて把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの能力の把握、一日の過ごし方を観察し、適切な支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活歴、既往歴などの情報を詳しく聞き取り、ケアマネはじめ医療関係者、本人及び家族と相談して、介護計画を作成している。	利用者の希望を主体に考え実現出来るように、必要な支援を具体的に取り入れた、個別の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄、水分、食事の状況について記録し、介護計画に活かしている。また、日々の変化、気づいたことなどを申し送り連絡ノートを使い、情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>				
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>幼稚園や小学校と交流を図ったり、避難訓練では自治会・消防署や地域の方の協力を得て、安心して楽しく暮らせるよう支援している。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>全利用者のかかりつけ医を把握しており、受診の支援を行っている。また、かかりつけ医と連絡が取れない場合は法人の管理医と協力体制を整えている。</p>	<p>希望するかかりつけ医、協力医を受診し、職員が同行する際は状態を報告して、受診結果も共有している。歯科医の往診もあり、薬は職員が責任をもって管理している。夜間の対応も法人の看護師や2ユニットで連携し、病院搬送時の応援体制はマニュアル化されている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>法人内の看護師と連携をとり、すぐに対応できる体制になっている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院の際は、担当医・看護師・家族と相談し、適切な対応が出来るよう努めている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>アセスメントを行い、本人及び家族の意思を把握し、医師と相談しながら、変化に対応できるよう努めている。</p>	<p>重度化した場合の話し合いは利用開始時から継続して行われ、利用者・家族等・医療関係者の方針は統一している。入院した時は病院に訪問し、退院後も家族等からの相談を受け支援を続けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の勉強会を行っている。また、マニュアルを整備し、会議の際に確認している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を自治会及び地域の企業より参加して頂いている。また、火災の際は通報装置で自治会と企業、近接している老人保健施設に電話連絡がいくようになっていく。	東日本大震災では、職員総出で臨み、備蓄面でも対応ができたといえる。さくさくネットを使って管理者が情報を入れる仕組みを取り入れ、マニュアルも再強化を図るなど対策を講じている。避難訓練は地域の協力を得ており、津波を想定したものも行う予定がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方の人格を尊重し、人生の先輩であるという気持ちを忘れず、プライバシーを確保している。	職員は利用者の気持ちになって、穏やかで安心した顔がいつも見られる様に、せかせかしないゆったりとした接遇を心がけている。縫い物や、歌を唄ってもらったり、本の読み聞かせなど、利用者が主役になれる場面作りを大事に考えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや希望を汲み取るよう見守り、自分本位で決定できるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細かい日課はなく、入居者の希望・ペースに合わせている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは入居者の方と相談し、その日の好みに合った服装をしてもらっている。理容に関しては、家族から協力を得てなじみの美容室に行ったりしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑から野菜を収穫したりして、笑顔のある食事を心掛けている。準備や片付けなどは、入居者の能力に応じて行ってもらっている。	出来る範囲で食器拭き等の手伝いをしてもらい、クラシック音楽の流れる中、みんなで食事を味わっている。おやつ作りや畑の収穫も利用者の関わりがあり、出前のメニューを選んでもらう楽しみも出ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人栄養士から指導を受けて、献立をたてている。また、個々の食事・水分摂取を記録し、能力及び摂取量に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	食後のトイレ誘導や定期誘導など、一人ひとりに合わせた支援を行っている。また排泄チェックを行い、状態把握に努めている。	体温・血圧・排泄回数・水分摂取量など一人ひとりの体調管理を一日分と月毎に表で記録している。それを基にスタッフ全員で排泄パターンを把握し、しぐさや時間を見て早めの対応に努めている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多い食事及び水分摂取を心がけ、摂取量をチェックしている。また毎日レクリエーションでリハビリ体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週二回の入浴日は決めてあるが、希望に応じて調整して入浴を実施している。	時折々、かりん湯などの季節を取り入れた入浴を楽しみ、週二回にこだわらず入りたがらない方には毎日声掛けするなどの対応をしている。職員は常に目を離さず、体調や身体の変化に気を付けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思を尊重し、自由に居室で休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対する知識はもちろん、誤薬防止のためのチェックリストを用いて、確実な服薬の徹底に努めている。服薬支援の際は、職員二名で確認、入居者の名前を呼ぶといったダブルチェックを実行している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や楽しいことを把握し、自主性を尊重しながら活動してもらっている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得て、希望のある方は外出・外泊を行っている。また、暖かい時期は外に散歩に行ったり、買い物の支援を行っている。	墓参りや法事、実家に行くなど家族等と一緒にの外出をしている。バスで出かける紅葉狩りや白鳥を見に行く等の観光ドライブは人気の一つで、車いすの方も喜んで参加している。又、買い物やミニドライブは職員を独り占めできる時間でもあり、本音を聞くこともある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状況・能力に合わせて管理してもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきたら本人につなぐようにしており、希望があれば電話もかけてもらっている。手紙のやりとりも自由に行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	すべての場所の掃除を行い、清潔を保っている。夏はバラ風呂、冬はゆず湯などを取り入れ楽しんでもらえるよう工夫している。ホールの壁には季節に合わせた貼り絵などを入居者の方と行っている。	事務所を2ユニットではさみ、ガラス窓でどちらも見渡せる安心した造りになっている。全館床暖房で加湿器も設置され利用者の快適な暮らしに配慮している。吹き抜けの天窓は共同スペースを明るくしており、一人になれるスペースもあり、気持ちを落ち着かせる場所として使われている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを玄関ホールや食堂に置いて自由に使用して頂き、一人になれる空間を作っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・道具など自由に持ち込んでもらい、居心地のよい部屋作りに努めている。また、小学生からもらった似顔絵などを貼って、明るい部屋作りを心掛けている。	居室の大きなドアは開閉もスムーズで、各部屋ごと色別され認識しやすい配慮がある。室内は広々と洗面台も完備され、清潔に保たれている。写真や書道などその人ならではの作品が飾られており、住まいとして安心した居場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかること・できることについてアセスメントを行い、職員が統一した理解のもと、自立支援に努めている。		